

2020年度業務実績報告書

提出日 2021年 1月19日

1. 職名・氏名 教授 廣瀬弘毅

2. 学位 学位 修士, 専門分野 経済学, 授与機関 京都大学, 授与年月 1998年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経済政策（4単位 毎年開講） 2年生	
②内容・ねらい（自由記述） 経済政策 理論と現実との関連を理解させる。そのため、ミクロ経済学、マクロ経済学の復習を交えながら、それらの理論が生まれてきた社会的背景についても、時間を割いて論じている。と同時に、できるだけ実際のデータを読み解くことを念頭に講義を展開した。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 講義用に、図を用いるところではパワーポイントを利用して、理解を促進している。また、できうる限りアップツーデートなニュースなどを講義に盛り込んでいる。 今年度は、期末試験の解答方法に工夫をさせるため、模式図を中心に、必要事項を書き込むようなスタイルにした。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 産業組織論（2単位 隔年（偶数年開講））	
②内容・ねらい（自由記述） 学生にはなじみの薄いミクロ経済学を現実の経済分析に利用できるということを実感させることをねらっている。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 学生でも普段気づきやすい卑近な例も用いながら、難解な産業組織論の理論を理解させるようにしている。数式に弱い学生を考慮してできうる限り図式を用いたパワーポイントのプレゼンテーションを挿入している。 また、今年度は公正取引委員会から事務総局近畿中国四国事務所長の藤本氏による特別講義も実施できた。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅰ（4単位） 3年生	
② 内容・ねらい（自由記述） 主に2つの目標を考えている。最近の学生は理論を敬遠する傾向にある。そこで、まず第一に前期ではあえてマクロ経済理論とミクロ経済理論の両方を復習させている。前期はミクロ理論及びマクロ理論の復習を行っているが、単なる復習ではなく、現実と理論のリンクを意識させている。後期には他大学との対抗ゼミを企画し、そのための準備を学生自身に行わせるようにしている。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、初めてZOOMによる遠隔開催となった。 12月には、学内のsmap合同ゼミナール大会（スマコン）にも出場した。限られた時間での準備であったが、それなりの成果があったと思う。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 学生の自主的な運営力を涵養するために、できるだけ準備段階では口を挟まないようにしている。しかし、全く放任というのではなく、要所で学生自身に立ち止まらせ、自らの行動を振り返られるように、区切りをもうけている。	

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅱ 4年生
② 内容・ねらい（自由記述） 4年生の前期は、就職活動で忙しいため、3年生までのように担当を事前に決めて、報告させるスタイルは難しい。そこで、出席可能な学生に対して、新聞等から興味を持ったものについて、簡単なレジュメを作成させ、議論の種としている。 後期では、卒業論文の作成のため、随時進行状況を報告させている。履修する学生に、卒論を書くことを原則としているので、13名中13名全員が執筆中である。今年度はコロナの問題もあって、学生と接する機会が少なかったため、その分意義深く感じている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） さまざまなネタをもとに議論させることで、就職活動中の「グループ・ディスカッション」への心理的障壁を引き下げると同時に、耳学問的に知識の豊かさを計っている。 卒業指導は、個人単位が中心となる。ただ、幅広いテーマを扱うことになるので、こちらの対応力に差が出るのは、いかんともしがたい。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎演習 2年生
② 内容・ねらい（自由記述） 2年生の段階で、あえて「経済学とはどのような学問か」を考えさせるような教材を選択して、報告させている。この目的は、内容もさることながら、これから本格的に専門教育を履修するに当たって、「経済学」という学問体系に対してイメージをわかせると同時に、レジュメの作成、報告の作法など技術の習得も目的としている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 残念ながら、現在のカリキュラム体系ではメタレベルでの経済学を学ぶ機会は皆無に等しい。そこで、簡単ではあるが経済学の入門書では古典に類する新書を教材に選んでいる。具体的には大塚久雄の『社会科学における人間』等を選ぶことにより、幅広い視野を習得できるように配慮しているつもりである。とはいえ、最近の学生の「社会への関心」を惹くのは難しい。
(2)その他の教育活動
内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①論文 「功利主義と経済学」『経済経営研究』第 42 号, 2020 年 3 月
②著書
③学会報告等
④その他の公表実績 ・教科書・参考書 『2020 ブームアップ現代社会資料』実教出版（高校生用資料集）一部執筆 2020 年発行 『2020 新政治・経済資料三訂版』実教出版（高校生用資料集）一部執筆 2020 年発行 ※2019 年新規作成分の改訂
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター, 司会活動（担当報告名, 担当学会（大会）名（開催年月日）） 経済学史学会第 84 回全国大会共通論題「経済学史の未来：経済の理論と歴史から」（経済学史学会創立 70 周年記念）司会（大月短期大学の伊藤誠一郎先生と共同）
学会での役職など（学会名） 地域公共政策学会 理事 進化経済学会 監事
学会・分科会の開催運営（担当学会（大会）名（開催年月日），開催場所）
(3)研究会活動等
①その他の研究活動参加（参加研究会名, 調査活動名（期間）） 経済学方法論フォーラム（代表：中央大学只腰先生, 北海道大学佐々木先生）年 2 回
②その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
科学研究費「新自由主義的思潮の浸透に関する実証的研究」（基盤研究(B)課題番号 19H01472） 研究代表者 2019 年度～2022 年度
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献活動

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称，業務内容，担当期間） 福井県景気動向指数検討委員会（現職） 大野市都市計画審議会（現職） 福井市都市計画審議会（現職）
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称，業務内容，活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容，活動期間）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名，活動内容，活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名，活動内容，活動期間）
⑥その他（名称，活動場所，活動期間） 福井県総務部政策統計課 統計分析グループとの間での毎年（不定期もあり）な意見交換を行っている。産業連関分析や県民経済計算についての研究など。なお，表にはなっていないが，不定期に採用指数の変更検討など何度か打ち合わせが行っている。 財務省福井財務事務所主催，福井県経済情勢意見交換会が毎年2回程度開催されていて，参加している。
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名，開催場所，開催日時）
②社会人・高校生向けの講座（タイトル名，開催場所，開催日時）
③その他（名称，活動場所，活動期間） 金津高校探求アドバイザー（2020年度）
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容，主たる活動場所，活動期間）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(職名, 期間) 経済学科長
(2)委員会・チーム活動
(名称, 期間) 大学案内 WG
(3)学内行事への参加
(行事名, 参加日時)
(4)その他, 自発的活動など
(活動名, 活動内容, 活動期間)